

第 112 回 小樽商科大学－北海道大学 総合定期戦・対面式 報告書

2026 年 7 月 9 日

小樽商科大学応援団後援会

小西 一郎

2026 年 7 月 4 日(土)第 112 回 小樽商科大学－北海道大学 総合定期戦・対面式が開催されました。



晴れ渡った緑丘の朝。団員達は幟装着、助っ人の着付け、糧食調理、声出し等、準備に勤しみました。



7 月 2 日の北海道新聞を読み、今年卒寿になられる元商大職員の方が、団への寄附を携え地獄坂を登り応援に来て下さいました。

9時30分、校歌「金鱗踊る」斉唱後、第112代商大応援団を先頭にした40名程の隊列が商大を出立しました。陣容は、団長久保海音、副団長兼団旗長青山仰太郎、参謀兼演舞長一條大輝、鼓手長米永森、マネージャーとして俵想良柊、新参として工藤杏菜、佐々木聲子、澤向恭輔、清水雄大、パク・ジェウォン、村田恭乙、マネージャーとして吉崎桃香。学内OBの108代森田亘佐、110代大西勇樹、111代桑野友希、経森悠生、花優子、佐藤琢斗が、学内OB役として109代小笠原廉、千葉竜馬、110代横本新、板谷瑞生が現役をサポートしました。当会からは、八尾会長、小西一郎、大坂則幸、清友一希、野並義章、谷口貴彦、中西貴大、松村卓弥が参加しました。



10時05分小樽駅前で参謀一條大輝を先頭に、団長久保海音、副団長青山仰太郎が、三役揃い踏みの下駄上げを行いました。久保海音による片足20キロの団長下駄の見事な足捌きに、観衆は声援を送りました。



10時33分小樽駅発の電車で11時18分札幌駅着。11時29分南口に整列するも北大は今年も遅刻、参謀罵り合いは9分遅れ11時39分からとなり、札幌駅前発は11時41分でした。

いつもは駅前通りの一本道を南下しますが、先導する北大参謀は北5条通りをひたすら西進。商大応援団曰く、北大からは、ルートを変更してバス停を避けるとの回答はあったが具体的な道順への言及は無かった由。六花亭を過ぎて左折との北大参謀の言葉も空しく、結局、南下したのは植物園東横でした。



12時12分かでの2.7前着。未だ大通西7丁目に滞留して居た北大との接触を避けなければならなくなり、已む無く此处で約15分の待機となりました。12時26分かでの2.7前発、12時45分大通公園西8丁目通過、12時55分漸く西11丁目に到着、12時57分商大が入場し、開始の時を待ちました。



13 時 02 分、北大参謀の開式宣言により、対面式が 32 分遅れで始まりました。最初は校歌。商大「金鱗踊る」の斉唱の後、参謀一條大輝が参謀エールを披露、巨大な「馬鹿扇」を振り、フレフレ商大・フレフレ北大の順でエールを切りました。続いて北大「永遠の幸」斉唱と参謀エールが行われました。



13 時 13 分花束交換。商大女形の野地開登君は長身、「団長下駄を履かせた」筈の北大大島渉君を身長で上回り、美貌も相俟って北大を圧倒しました。商大の久保海音団長は、何度も押し付けて来る北大の花束嬢を黙殺、やや暫くしてから花束を掴み取って放り投げ、観衆の喝采を浴びました。



13 時 16 分演舞披露。商大は演舞長の一條大輝と新参 5 名による雲竜型。観衆は、鼓手長米永森の太鼓に合わせ、勇壮な舞に拍手を送りました。其の後、北大の風流舞が 3 名によって舞われました。



13 時 47 分一般参加競技の綱引きが行われました。一般競技に強い商大の伝統は今年も健在！数多くの学生やOB等が参戦した商大の圧勝でした。

13 時 52 分商大の久保海音団長が挑戦状を読み上げました。



絶対王者である商大を称え、112 回目の祝杯を挙げようぞ。

札幌は都会だと威張り散らして居るが、いつまで経っても新幹線が来ないではないか。

小樽から近いだけしか取り柄の無い村に、駅前の再開発は見込めないぞ。

北大の早坂は、豚小屋でお姫様気取りの様だが、兵隊の面倒一つみれず脱走させるとは滑稽であるな。

大島を団長に続投させて居る様では、同じ女性団長して恥ずかしい限りであるぞ。

おまけに其の大島は、下駄から落ちる間抜けである。今年はそうしない様に仕上げてきたんだろうな。我々が怖いのなら、可愛い妹に手を握って貰え。団長なら、まともに下駄を上げてみろ。

めでたいことに、北大は 150 周年を迎えた。一方で北大応援団は、其の歴史に終止符が打たれる様だ。兵隊も満足に入れられないのが其の証拠であろう。お前らの愛校心は所詮張りぼてであるぞ。

先輩から繋ぎ留めてきたからこそ、こうしてついてきてくれる団員が居る。我々の指導が必要なら、いつでも講釈を垂れてやるが、お前達には豚に真珠であるぞ。

少数精鋭の商大生であるから、有象無象の北大生に負ける訳がないぞ。

我々の愛おいしい街、小樽へ完全なる勝利を献上しに行くぞ。

対して、14 時 03 分北大大野渉団長が応戦状を読み上げました。



よくぞ札幌まで来た山猿どもよ。此の俺が直々に鑑定してやる。

お前ら、商大応援団は張り合いが無さ過ぎるぞ。其れは飯に行けば直ぐに分かる。口を開けばアニメやゲーム、ボーカロイド。応援のことはそっちのけ。もう少し言葉を覚えたらどうだ。団長の早坂は、商大はツマラナイと口を大にして言って居たぞ。

男どもはマネージャーに鼻の下ばかり伸ばして居る。マネージャーを入れる程、忙しくないだろう。

俺は昨年、奇しくも留年してしまったが、何と今年、教育学部に進学が出来たぞ。教育学や心理学を学ぶ此の俺が、教育実習の前にお前らを教育してやる。縛られるのが好きという、其処のド●の団長も、さぞかし喜ぶことだろう。

商大応援団よ、互いに高め合える存在になってくれ。

令和になっても髪と髭を伸ばし続ける馬鹿が居るぞ。其の馬鹿こそ俺達だ。家族に心配され、就活ではもっと心配されて居る。其れでも剃ったりはしない。剃れないからではなく、守りたいものがあるからだ。答えなど誰も持っては居ない。だからこそ問い続けろ、其れが応援団だ。

そして百年先の後輩達にも、此の舞台を渡してやろうではないか。

横溢するウィットとユーモア、迸る愛校心、譲れない意地、滲み出る知性、相手校への敬意、そして百有余年に渡る両校の友情。此れぞ正しく両校の総合定期戦・対面式でありました。

最後は両校の寮歌交換。14 時 16 分商大「若人逍遙の歌」の斉唱。商大副団長兼団旗長の青山仰太郎の口上の後、学生、OB、市民が肩を組み逍遙歌を唄いました。青山は中央に進み、フレフレ商大、フレフレ北大の団旗エールを行いました。14 時 25 分北大「都ぞ弥生」斉唱、団旗エールが行われました。

14 時 30 分、北大参謀の「此れにて終了」のコールにより、総合定期戦・対面式は終了しました。

式典後、会場中央でストームを行いました。残念歌の斉唱の後、学生、OB が大きな円陣を作って肩を組み、木端微塵に打ち破り 勝利の栄冠我にあり 残念か残念か 残念なら又来んせ の後、ストームとなりました。

以上